

## 平成27年度 第3回大山崎町総合教育会議 議事録

日 時 平成 28 年 2 月 12 日(金)午後 1 時 30 分から午後 3 時 00 分まで

場 所 町役場庁舎 3 貝 防災会議室

出席者【総合教育会議構成員】

(町長)

山本 圭一

(教育委員会)

教育長 清水 清

委 員(教育長職務代理者) 南 顕融

委 員 並川 康子

委 員 藤井 恵美子

委 員 榎本 和彦

【構成員以外の会議出席者】

総務部長 堀井 正光 政策総務課長 蛭原 淳 政策総務課参事 斉藤  
秀孝

教育委員会次長兼学校教育課長 山本 美由紀 学校教育課参事 矢野  
雅之

【傍聴者】

2名

13:30  
(教育次長)

定刻となりましたので、ただいまから第3回大山崎町総合教育会議を始めさせていただきます。当会議は原則公開としておりますので、傍聴者の方には既に会場に入室していただいております。

早速、山本 町長より会議開催のご挨拶をいただき、続けて、当会議の主宰者として会議の進行をお願いいたします。

(町長)

あらためまして、大山崎町長の山本圭一でございます。どうぞよろしく申し上げます。

皆様方には、第3回の総合教育会議にご出席をいただきありがとうございます。

本日の第3回は、平成27年度における最終回として、開催させていただきます。

今月の24日(水)からは、平成28年町議会の第1回定例会が開会いたします。

この議会におきまして、新年度予算案をご審議賜ることになります。教育予算につきましても、本年度策定の総合計画に載せている事業、そして教育委員会事務局のご提案内容の中から、可能な限り予算計上のうえ、議会に上程させていただく所存でございます。

本日の協議調整事項といたしましては、お手元の会議次第のとおり、1つには「大山崎町教育大綱」について、でございます。

第1回の「当総合教育会議」において、町の教育振興基本計画に置き換えることが、協議済みであります。

今年度に、町教育委員会におかれましても平成28年度から32年度までを計画期間とした新たな基本計画を策定されますので、その計画の中の「大綱」にあたる部分を、本日ご協議をお願いしたいと存じます。

協議・調整事項の2つめとしましては、「教育を行うための諸条件の整備、重点的に講ずべき施策について」でございます。

この議題につきましては、当総合教育会議の第1回、第2回におきましても、広く「大山崎町の教育について」ということで、ご意見をお伺いし、私の考えも述べてまいりました。

そこで、本日は議題を絞りまして、「町教育委員会が昨年12月にアンケート調査を実施された『スクールランチについてと、本町における中学校給食のあり方について』」、各委員様のご意見をお伺いしたいと考えております。

それでは、事務局から資料の説明から始めてください。

(学校教育課  
参事)

資料としましては、別途、教育振興基本計画の概要版、これも未定稿としてご配布しております。

それでは、まず、これまでの流れを含めて今後の進め方等についてご説明します。

本日お示ししています「基本理念等」については、1月22日開催の1月定例教育委員会におきまして、その他報告としてご説明済みでございますので、本日の総合教育会議で、ご協議頂き、その内容をもちまして、最終案とさせていただきます。

そして、この基本理念を含めた「教育振興基本計画案」を、2月23日開催予定の2月定例教育委員会に議題としてお諮りして、ご可決いただきたいと予定しております。

そのご可決いただいた内容で、3月町議会の「建設上下水道文教厚生常任委員会」で、確定版の冊子としてご配布のうえ、ご報告することとしております。

次に、大綱部分の中身のご説明でございます。

前回の11月開催の第2回総合教育会議におきまして、基本理念とサブタイトルにつきましては、ご協議いただき調整済みとなっております。

基本理念が、「一人一人が輝き、未来をつくる学びのまち『おおやまざき』」であり、サブタイトルが、「学び、自立、つながりの確立を目指して」であります。

そこで、本日は、基本理念実現のための4つの基本的方向を中心にご協議・調整をお願いいたします。

お手元資料「計画の未定稿 一部抜粋」としたA3用紙一枚ものの2つ折りしている資料でございます。

．．．．．資料の説明（省略）．．．．．

事務局からは、以上でございます。

(町長)

事務局から説明がありました。

まず、「教育大綱」について協議を進めます。

今般策定を進めておられる「教育振興基本計画」をもって、町の教育大綱に置きかえる。そして、教育大綱にあたる部分は、基本理念とその実現のための基本的方向であります。事務局説明の4つの基本的方向について、教育委員さんのご意見やお考えをお聞きしたいと存じます。

私は、新たな教育振興基本計画を策定され、その基本理念を先の5年間の基本理念を踏襲されて、「一人一人が輝き、未来をつくる学びのまち『おおやまざき』とされたことに賛同しておりますし、この基本理念を継続することで、今回の新たな計画を『第2期』とされているものと理解しております。

どなたからでも、結構ですので、基本的方向の内容について、ご意見、ご提案、感想など、どのような事でも結構ですので自由にご発言をお願いいたします。

(委員)

ご提案の「教育振興基本計画」は、教育を多面的視点から総合的にまとめられていると思います。私は、教育理念は大きく変えることなく、基本的方向は、時代の変化や社会情勢等に適合させて少しずつ変えていくべきものと考えます。

基本的方向2の中の「安心・安全でいじめのない楽しい学校づくりの推進」、主役である子どもたちがいきいきと過ごせる教育環境が何より重要と考えます。子どもたち一人一人が自ら考え、学び、自立していくためには家庭、学校、地域の連携が重要でありその視点が基本的方向に取り込まれていて良いと考えます。学習には意図的・意識的な学習と、自然な無意識な学習がありますが、家庭・地域においては無意識に学習する場であると思います。

新たな教育振興基本計画のもとで、「知・徳・体」のバランスのとれた、生きる力を育む教育を進めていただきたいと願っております。

(委員)

私は、今回の教育大綱・教育振興基本計画に関しましては、

前回策定の教育基本計画の進化版との理解をしています。つまり、前基本計画をさらに充実発展させてより進化させたものと捉えています。個々の重点目標にあげられている推進する取組の具体例の記載については、重複表現が少し気になりますが、概ね了とするものです。

指摘事項については次のとおりです。

3ページの重点目標8の推進する取組③学校給食の充実とあるのを、③学校給食の拡充などに改めたほうがより進化した感じができるのでは。

④については、最後の表現「推進」を「促進」又は「充実」など強力に推し進める表現に検討しては。

全体的に表現方法を簡潔に、わかりやすくしていただくことをお願いしておきます。

(委員)

町の地域創生総合戦略は、人口減少を見越して、次の視点で策定されています。1つには、「長く住んでもらうよう安心で活力のあるまちをつくる」、2つには、「住んでいる人にいつまでも住んでもらう」、3つには、「子どもが大人になっても住んでもらう」、4つには、「多くの人に来て、見て、知ってもらい、住んでもらう」、長く、いつまでも、子どもが大人になっても交流して住み続けてもらうことがキーワードとなっています。

出産・子育てがかなう環境づくりと、児童生徒の学力向上と、生きる力を育む教育環境づくりが大きなウエイトを占めているものです。

その意味で、「一人一人が輝き、未来をつくる学びのまち『おおやまざき』～学び、自立、つながりの確立を目指して～」とされた教育の基本理念は、確かな分析の上に言語化されたものと考えます。

実現のための4つの基本的方向についても、少し総花的な感はいなめませんが、結論として私も了承とします。

なお、先の委員ご指摘のとおり、文言整理をご検討いただきたい箇所があることを申し上げておきます。

具体的な箇所として、基本的方向2の重点目標7では、本町の特色を強調することや、基本的方向3における重点目標10においては、家庭の位置づけを明確にすることにより、本町の特色を出す工夫をご検討いただきたい。

(委員)

私も基本理念、基本的方向は当案で結構と考えます。

私からは、少し重点目標に掲げられている内容について、少し具体的な内容になりますが、述べさせていただきます。

まず、基本的方向2の重点目標8では、教育効果をあげる教育環境の充実を掲げられています。学校の現状として、大山崎

中学校ではICT活用（デジタルテレビの整備）が、比較的進んでいますが、両小学校はまだ不十分であり計画的な導入が必要と考えます。

次に、基本的方向4では、「生涯スポーツの推進と郷土の歴史と伝統文化を活かしたまちづくりを進めることがあげられています。学校教育において、大山崎町の自然や歴史・文化を学ぶ機会が多いと思いますが、自分たちの住む、生まれ育った町に親しみや愛着・誇りを持つことで、「地域（ローカル）・アイデンティティ」が育成され、大山崎町から日本へ、そして世界へと発信されていくことが期待され、合わせて異文化への理解にも繋がるものと考えます。

大山崎町の自然や歴史・文化、スポーツとりわけ、大山崎町は「天下分け目の天王山」「フェンシングの町」などの誇れるセールス・ポイントを活かして、学校教育の中で「大山崎町の素晴らしさ」を子どもたちに伝えていただきたいと願っています。

（教育長）

平成23年に策定いたしました「大山崎町教育振興基本計画」のもと、京都式少人数教育の推進による学力の向上、小中学校の連携による教師力の向上、地域の関係団体の協力を得たふるさと学習の推進、フェンシングのまち・おおやまぎきの取り組みをはじめとして各種スポーツの振興、公民館活動、歴史や文化遺産を守り生かす事業などに取り組んできました。

また、これらの各事業につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第26条）に基づき、毎年度「大山崎町教育委員会事業報告」として事務の管理及び執行の状況について、評価委員による外部評価をいただき、取り組んで参りました。

先程、計画の策定について、事務局から報告をいたしました。が、国においてはグローバルな人材の育成、道徳の教科化、主体的・協働的な学習（いわゆるアクティブラーニング）の推進、学校・家庭・地域の連携など様々な教育改革が進められています。

一方、本町の今日的な課題である、いじめ問題や不登校の解消、安心安全の取り組み、子どもの貧困対策、2020年に開催される東京オリ・パラを機に国際交流や文化・スポーツの振興にもしっかりと取り組まなければならないと考えております。それらを踏まえ、第2期の教育振興基本計画の策定につきましては事務局が申しました手順に添って、只今頂きました各委員の意見を取り入れ、文言の整理を行い、町長にも見て頂き、教育委員会で議決を頂いた上で、正式に「第2期大山崎町教育振興基本計画」策定の運びとさせていただきます。

そして、英語教育や保幼少中連携等々のより具体的な取り組

みは、年度、年度の「指導の重点」を策定し取り組んでいきたいと考えております。

(町長)

委員各位、教育長から基本理念である、「一人一人が輝き、未来をつくる学びのまち『おおやまざき』」を実現するための4つの基本的方向に関して、貴重なご意見を頂戴しました。

私が「教育」に期待するとか、望んでいることは「様々な発達段階に応じた人づくりの大切さを、家庭、学校、地域が共有し、一人一人の可能性を開花させて、この大山崎町に愛着と誇りを持って、社会の一員として自立していくことができる子供たちに育てていただきたいということです。

まさに、「基本理念」と同じ考えであります。

そして、「地域社会を取り巻く社会情勢が目まぐるしく変化している現代において」、豊かな人間関係を育む地域社会を創造していくためには、社会教育の果たす役割が極めて大切であるとの考えを持っています。

今回、お示しいただいた4つの基本的方向の、3つ目と4つ目が、その施策を具体的に明示していただいていると思います。

本日の協議をもって、今般策定される「第2期大山崎町教育振興基本計画」をもって、「大山崎町教育大綱」とさせていただくことで、ご了承いただけますでしょうか。

(各委員・教育長)

・・・了承・・・

(町長)

ありがとうございます。

それでは、協議・調整事項の2つめに移ります。

教育を行うための諸条件の整備、重点的に講ずべき施策についてであります。先に申し上げましたとおり、本日は議題を絞りまして、「町教育委員会が昨年12月にアンケート調査を実施されました『スクールランチについてと、本町における中学校給食のあり方について』」、各委員様のご意見をお聞かせ願います。

ご意見をお聞きする前に、事務局から「アンケート結果の概要」と合わせて、これまでのスクールランチ事業の経過も含めて報告・説明をお願いします。

(学校教育課参事)

平成27年12月に実施しましたアンケート結果等をご報告します。

・・・資料の説明(省略)・・・

事務局からは、以上でございます。

(町長)

家庭弁当を補完する方法として、開始した事業でございますが、喫食数、利用が伸びずに、減少傾向であります。

平成 27 年度当初予算では、スクールランチ事業の委託料として、500 万円を計上して本年度の事業執行にあたってきております。アンケート調査の結果の概要をお聞きいただき、教育委員皆さま方の忌憚のない、ご意見をお聞かせいただきたいと思っております。どなたからでも、ご自由にご発言をお願いいたします。

(委員)

前回の総合教育会議でも取り上げていただきました中学校給食について、まず私の思いを述べさせていただきます。

教育委員間において、この件について議論するのですが、実際のところ賛否両論、どちらの意見も正論といえるところが多く、私の考えも行ったり来たりして揺れ動いているのが事実であります。しかしながら、時代の趨勢や大局的な見地から眺めてみますと中学校の完全給食化は積極的に推進していくべきものと思っております。

小学校の給食施設の改修を良い好機と捉えてそれに合わせ、スピード感を持って、計画を推し進めていただきたいと思っております。

そして、スクールランチ事業は学校給食の充実の第一段階として終了し、その次の段階としての学校給食事業であるとの認識であります。学校給食実現に向けて山本町長の御英断を強くご期待いたします。

(委員)

本町のスクールランチ事業は、より良い子どもたちの食生活に向けての取組みとして評価できるが、利用者数からみて、費用対効果の面から継続は困難と考えます。

学校給食については、家庭の貧困対策としての面や子どもたちの体力の増進などの面もあり、大山崎町においては過去に牛乳給食を実施して取りやめた経過もあります。

先日、近隣市における「中学校給食におけるアンケート結果」が新聞記事に載っておりました。保護者が学校給食を求める思いは、本町のアンケート結果と同じでありました。私が注目したのは、そのアンケートでは学校の先生の方の考え方も取られており、半数以上の先生方は学校給食の実施に否定的なお考えでした。学校給食実施には、給食指導という大きな教育的内容も含んでおり、教師の指導力が重要である。

町のアンケート結果から、保護者は中学校給食に、栄養バランスのとれた昼食を望んでいることも読み取れる。大変厳しい

財政状況ではあるが、学校現場の先生、管理栄養士の意見も十分に聞きながら本町に導入可能な中学校給食の実施に向けた検討を進めていただきたい。

(委員)

スクールランチについて、利用者が少ない現状を受けて、「スクールランチを廃止する代わりに、購買部の充実を図る」ことが有効な取り組みと考えます。

「児童・生徒＝(家からの)弁当が良い」「保護者＝給食が良い」という、相反する先のアンケート結果を受けて、「中学校給食を導入」に向けて進めて行くのか否か難しいところですが、双方の意見を取り入れた「折衷案」として、「弁当を主に週2～3日は給食を実施する、若しくは「中学校給食を主に週2～3日は弁当」という方法も考えられるのでは。

中学校給食の実施方法を「センター方式」あるいは「親子方式」にするにしても、初期の設備投資費用やランニングコストなどの新たな財政負担が生じるので、実現に向けての財政計画が必用。

(委員)

スクールランチについて、現状の利用者数が当初導入時の見込みを大きく下回り、今後も利用者が増えるとは見込みにくいので、廃止せざるを得ないと考えます。

中学校給食が実施された場合、教師の負担が増えるが、現状においても教師の長時間過密労働が問題になっており、そのことが懸念される。先生方の負担を軽くすることが可能になるよう検討が必要。

(教育長)

アンケートの分析結果につきましては、先日向日市の「中学校で希望する昼食の形式を尋ねたアンケート」結果の概要が新聞報道されていましたが、本町と同様の傾向でありました。

保護者は、学校給食の導入を希望され、子ども達は、保護者の手づくり弁当を望んでいる。私は、この結果は、ごく自然の結果だと思います。

小学生が、遠足などでお家の人を作ったお弁当を楽しみにし、うれしそうに食べる姿が良く見られます。中には「お母さんに頼んで作ってもらた。先生あげる。」と持って来てくれる子もいます。中学校に行けば、子ども達は、そういうお家の人を作る愛情弁当を求めるのは自然な気がします。

また、毎年、中学校の家庭科で夏休みに生徒自身による弁当作りの課題が出されており、その取り組みが文化祭のときに、展示されております。その感想には、自分達が弁当を作ってみて、苦労した経験を通して、毎日弁当を作るお家の人への感謝の言葉も添えられております。家庭の手づくり弁当を通して親



子の絆を深めていることは事実であります。

しかし、社会環境の変化に伴い働く保護者の方が増加しており、本町においても次年度の保育所の入所申し込みが増えている報告もいただきました。

今後も共働き家庭や一人親家庭における、弁当作りの保護者負担軽減をはかるための中学校給食の導入要望が加速化しているのが現状だと思います。

スクールランチの導入もそういったことを踏まえ平成25年10月からスタートをいたしました。成長期にある子ども達の心身の健全な発達のため、栄養バランスの取れた食事を提供し、健康の増進や食育の推進に取り組んできました。この間、議会でも何度か取り上げられ議論をいただくなど、町民の関心も高まったと考えます。また、乙訓の2市も中学校給食導入に向けて取組が始まっております。

本町も先の委員さんがお話されていたように、牛乳給食やスクールランチの実施してきた経験や教訓を生かし、第二ステージに進むことが望ましい時であると思います。

しかし、その際には、アンケート結果からも出ております子ども達の思いや中学校現場の先生方の意見なども踏まえ、総合的な観点から検討していくことが大切であると考えます。

(町長)

ありがとうございました。

家庭弁当を補完する方法として、実施してまいりましたが、スクールランチの喫食数を増やすことは困難と判断していません。

大山崎中学校の保護者のご希望、全国的に見た状況、近隣市の動向、本来的な学校教育における「食育」の観点、そして、現行の大山崎小学校、第二大山崎小学校の給食室の老朽化など、総合的に判断して決断する時期であると考えております。

本町の教育施設の整備に関しましては、近年、両小学校の耐震化、中学校の移転新築など、大規模工事が続いておりました、今後は両小学校の老朽化対策と合わせて給食施設の整備が必要であると認識しております。なお、中学校給食の導入にあたりましては、財政的な大きな課題もありますが、両小学校、1つの中学校の「学校給食」を中長期的な展望も持ったうえで、スクールランチから中学校給食に転換していくべきであるとの思いは、本日の総合教育会議においてさらに強めた次第であります。

今後、調査を開始し、検討委員会を立ち上げ、どのような方式で取り組むのかご検討いただくこととなりますが、様々な方法が考えられますので、ご審議・ご判断いただけるに足る調査資料をまず作成してまいりたいと考えております。

当然に中学校給食の導入検討開始にあたりましては、予算が伴いますので、来る3月議会での新年度予算のご審議において、ご説明をさせていただき、十分にご審議をいただき、町の決定事項となってまいります。

本日の「総合教育会議」での協議・調整が生かされるように、努力してまいりますので、教育委員様におかれましても本町教育行政全般にわたり、引き続き、ご理解・ご尽力を賜りますよう、お願い申し上げます。

以上で、「スクールランチ事業及び、中学校給食の導入」についての今後の方向性については、本日の「総合教育会議」において、協議・調整が整ったものとさせていただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

(各委員・教育長)

・・・了承・・・

(町長)

ありがとうございます。

以上で、予定の議題は終了いたしました。特にご発言があればお出しいただきたいと存じます。

それでは、他に無いようでございますので、第3回総合教育会議を終了させていただきます。緊急な案件が生じなければ、本日が27年度の最終回となります。

本日の会議の議事録署名人は、「榎本教育委員、清水教育長」のお二人にお願いします。

最後になりましたが、会議を傍聴いただきました方々にも厚く御礼申し上げます。

これもちまして、会議閉会とさせていただきます。皆様、長時間にわたりまして、ありがとうございました。

(閉会)